

航空自衛隊浜松基地に  
空前の和服女性パイロット出現？

杉崎孝雄 新制八期

PKO協力法案・世界平和のための人的貢献など、国内に議論は沸いているものの、まず先兵となる自衛隊そのものを勉強するのが先決ではないか。という、根が勉強大好き人間の北島茂氏(旧姓八森)の発案から、われわれ新制七期及び北校同期卒業生の総勢二十二名は、平成五年一月二十二日浜松へ向かい、浜松駅から自衛隊の専用バスで同期生である那須秋男司令官の待つ航空自衛隊浜松基地へ直行する。



まず幹部食堂にて、同隊の幹部自衛官たちとともに昼を会食。何分にも何から何まで目新しく、一行は高校はおろか、はるか小中学生に戻って喜々とはしゃぐ。司令官室前の大応接室では、斉藤一佐が自衛隊の概略・現状について、秋田弁での講義をする。「わが自衛隊のただ一つの弱点であると同時に世界に誇る美点は、一度も実戦経験がないことです」の言葉で終わった解説の後、質疑に入る。「小山、そうしたこともわがねのがおめエ、廊下で立ってろ！」と、またまた童心に戻る。

空港展望から管制塔見学。この日自ら案内役をかって出たという秋田県出身の教官パイロット阿部三佐の補佐で、一人ひとりパイロット席に乗り込む。なかでも圧巻は菊池悦子さん。和服姿で自衛隊機のコックピットに座るのは、絶後とは言えないが空前とのこと。そしていよいよこの日の目玉商品、フライト・シミュレーターによる飛行体験。阿部三佐の指導のもと、予想外に軽いシヨックとともに飛び立ったジェット機は、編隊飛行、濃霧突入、旋回ほか、天地がひっくり返る体験の後、富士山に向かって直進、無事基地に帰還した気分。

最後は任務を終えた那須司令官も合流して、浜名湖を望む国民宿舎『奥浜名湖荘』での新年会。例によつてのドンチャン騒ぎで締める。



新制七期同期会 航空自衛隊浜松基地司令官室で

平成5年1月22日

(前列左より)佐良土桂子, 森田恒明, 菊池悦子, 那須秋男司令官, 倉橋昭子, 梶 豊彦, 小貫 実, (中列左より)大塚志保子, 高橋佳代子, 落合士郎, 塩谷ヒデ, 梶 節子, 高槻照子, 岡部 忠, 港 治, (後列左より)小山哲道, 工藤尊久, 杉崎孝雄, 唐津光成, 北島 茂, 須藤祥夫, 京敬之介, 民谷恒二, (夜の新年会のみ参加 田中 秀)《以上, 敬称略》



新制三期 樽子山会 平成五年二月六日  
西池袋 酒処「小頭」にて  
出席者 伊藤康孝 江坂昭夫 雄鹿春勝 小野  
茂 柏木祐一 菊池弘吾 坂本修 竹内京一  
信太吉 工門 谷藤義郎 保坂隆司 八杉和男  
山谷正勝 渡辺利広 事務局・八柳昭義



新制十一期 123会(ヒフミカイ)  
平成五年二月六日 池袋北口 酒蔵「秋田屋」  
出席者 本庄喜代彦 佐藤重秋 太田勝治 赤  
塚修三 加賀宏義 越前谷孝臣 石川正順 宮  
腰瑞夫 田中善明 畠辰宏 港記久郎 田口俊  
夫 大越善蔵 長谷川哲郎 赤塚鉄夫 宮腰興  
紀 鈴木元紀 佐藤芙美江 本庄瑞彦(新制十  
七期) 港記久郎夫人



新制十四期 三十七年卒能代地区高校合同懇親会  
平成五年一月二十八日  
能代高・北高・工業高・商業高・農業高の各校  
三十七年三月卒業の東京近郊在住者 約百名  
新制十四期の濱屋裕一氏が中心になり、市内  
五校同期生が池袋「メトロポリタンホテル」に  
集まり、懇親会を開催した。

能代高校東京同窓会  
 平成四年度会費納入者名簿(敬称略)  
 平成五年三月一日現在 年会費 三千元  
 ②は2年、③は3年分振込

- 旧制一期 腰山巳代治 藤田成孝  
 二期 並木康三 淡路千代治  
 三期 板倉創造  
 四期 栗生沢實 近藤三郎 後藤典二 高垣重雄 高田忠夫 藤田成宜 三浦左武郎 武藤裕宜  
 七期 高橋富男  
 八期 高原英夫 武衛尚道②  
 九期 草皆英二郎 塩谷信三 高橋正太郎 中田友也  
 十期 淡路輝一  
 十一期 安濃五平 東海林俊郎②  
 十二期 泉 勇 今 久男 塚本淳逸 奈良善四郎 平泉 修 宮地 昭②  
 十三期 勝永金一 工藤文一郎 千葉胤時 安井哲彦  
 十四期 石山栄一 小林 武② 佐藤繁三郎 鈴木鋌三郎 高橋隆雄 宮原茂悦 村木良二  
 十五期 佐々木満 佐々木喜丸 鈴木喜雄 村田 守 森田良二  
 十六期 伊勢隆次 熊谷洋三 近藤 誠 中嶋信雄  
 十七期 岩森榮助 梅田恭三 川村幸信 工藤典夫 仙台忠正 高橋義三 茂呂定宏  
 十八期 愛沢鉄治 伊藤利兵衛 潮田 巖 塩谷昭二郎 森田繁雄  
 十九期 伊藤忠夫 加藤 武 日下部道夫 小林 肇 佐藤達郎 千葉孝夫 古内保 八木喜徳郎 吉方盛恭

- 二十期 坂本逸郎 東海林毅 高畠 隆 田中巖 大和好  
 新制一期 五十嵐嘉久彌 大塚哲郎 金子隆太郎 鈴木良夫  
 二期 荒川浩二 小野 喬 金谷兼雄② 金谷芳郎 佐藤真一 塩谷隆二 前田栄太郎 伊藤康孝 梅田卓美 江坂昭夫 柏木祐一 北川京二 信太吉右エ門 谷藤義郎 八杉和夫 山田隆理 山谷正勝 渡部 巽 渡辺利広  
 四期 石戸忠五郎 草階郷甫 小林究明② 田畑久雄 塚本一也② 塚本忠志 土井啓有 村井克自 安井浩一 吉田 博 相沢裕雄 秋元孝治② 伊藤和夫 大倉太助 設楽義雄 清水良二 成田憲司 芳賀 徹② 三田 登 宮腰孝一 八杉弘行  
 五期 倉太助 設楽義雄 清水良二 成田憲司 芳賀 徹② 三田 登 宮腰孝一 八杉弘行  
 六期 金子 正 金子勝信 木村信逸 小山黎子 佐藤正名 塚本昭次郎 畑江道弘 山谷金治②  
 七期 宇瀬徳彦② 岡部 忠 栗原俊一 佐々木胤麿 高田嘉子 那須秋男 納谷六郎 平川明三郎  
 八期 池内広之 板倉富彌 今立甲矢雄 京敬一 北村祐三 近藤勇夫 斉藤史郎 佐々木高博 佐藤五郎 嶋田拓爾 杉崎孝雄 須藤 正 畠山信孝 馬場ノリ 原田幸朗 平川国一 堀 良三 野呂幸朗 本庄敬雄 松橋重美 宮腰英彌 八柳昭義  
 九期 石岡忠治 梅田政男 金沢 稔 栗原優子 斉藤秀夫 佐々木隆 佐藤 斎 七戸節雄 田中郁三 田中総利② 樽森 寛 平川文雄②  
 十期 穴山勝良 石川輔宏 雄鹿豊彦 塩谷 惇 柴田 武 柴田 睦 東海林郁三  
 十一期 須田正巳 長野谷青史② 古内 仰 松野 肅 三浦義輝 水木初彦 宮腰達朗 赤塚鉄男 石川正順 太田勝治 大高幸夫 糟谷 愛③ 島田雄右② 塚本祝永② 畠 辰宏 宮腰瑞夫  
 十二期 小島セイ 千田浩一 堀内英紀② 野中啓右  
 十三期 大倉報三 神尾昌俊② 小林武廣 庄司政義 城野攻一 須藤靖夫 高松和夫 三浦永夫  
 十四期 磯部 博 高田政勝 佐藤 博 山田孝行 大和東悦  
 十五期 越後谷達雄 小林勝彦 桜田真人② 戸松勇一 播磨谷謙哉 船山 稔 堀内忠人 矢木信章  
 十六期 岸部達行 小松世和 斉藤彰悟② 平沢正典 平沢徳子  
 十七期 小山内与治兵衛② 佐々木正男② 平澤正知② 本庄瑞彦 横田真理子  
 十八期 男鹿谷浩市② 小林公雄 田村規清② 浅野 譲 今野廣隆 大倉久史 加茂谷純一 小林雅夫 笹村八州 武田正 若狭秀己  
 二十期 青柳信夫 川村忠義 坂田二郎 佐々木慶二 柴田真理子② 袴田忠夫 袴田政廣 畑沢鉄三 松村ひとみ② 大高正典 大塚 進 金野峻明 菅原涉 関 隆男 直嶋博明  
 二三期 加賀谷良博 熊澤朝子 三戸和幸 智田 農 松岡 亨  
 二三期 小河範也 高畑 仁  
 二五期 小林 彰 佐藤義宏 高橋敦子  
 二六期 石川幹夫 佐保田朋子  
 三十期 斉藤昌哉  
 三二期 鈴木裕美子  
 以上、二百七〇名 合計 八九九、〇〇〇円

町の活動成果を一堂に

藤里町（旧藤琴村、粕毛村を合体）

十一月七、八の両日、町民祭「ふるさとみれあいフェア」が開催され、広域体育館や開発センター、借栗荘などを会場に、町の農林業・商工業・芸術文化など、町民の今年の活動成果が披露された。



広域体育館では、農産物や特産品、一般商品「虹のいえ」の生産物などの展示即売、白神山地ワインの試飲会などのほか、今年の高齢者アイサービス利用者の作品展示販売や古本市も開かれた。また、農協婦人部が「だまっこもち」作り競争を行い、訪れた人に振る舞っていた。開発センターや借栗荘では、各種文芸作品の展示や芸能発表会のほか、羊毛つむぎの実演や町民有志の「ぶらすの会」による家庭廃油からの石鹸作り実演などが行われた。

観光の中心「ハタハタ館」の建設

八森町（旧八森村、岩館村を合体）

八森・岩館海岸は、県立自然公園に指定され、夏の海水浴時には県内外から大勢の観光客が訪れる。ブナ原生林の白神山地三千釜の清流などの山や河川のすばらしさも町の観光のポイントである。この景観を基本にした観光の中心がハタハタの里作り。その核となる施設が御所の台に建設中の「ハタハタ館」で、今年十月末の完成をめざし、着々竣工中。

鉄筋コンクリート構造の三階建てで敷地面積二千二百七十四平方メートル。駐車場は二百台を収容し、団体客用の大型バスも十分受け入れられる。近隣には、海水浴場や町営野球場、山村広場、キャンプ場などがあり、観光客のさまざまな要求に応えることができる。

一階は初めて八森を訪れた人たちに、ます八森町を知っていただくホールで、訪れた人たちが自由に出入りできる。

町の農林水産物の展示コーナー及び海・山・施設などの観光地を映像で紹介するシアターも設けられる。トイレも完備。ドライブの途中に寄っていただくもよい。

二階には休憩室などの広間が用意。百二十畳の大広間は、お祝い事の会場として、また宴会場としてだれでも利用できる。

三階は温泉を利用した浴場。男湯、女湯それぞれに一般浴場はもちろん、2種類の超音波風呂（泡風呂・ジェット風呂）、低温・高温サウナ、うたせ湯、そして屋外には海岸を一望できる自慢の露天風呂ができる。洗い場もゆつたりした広さになっており、スポーツ・レジャーのあとの疲れも、これですっきりとれること間違いない。

たった一人で観客四百五十名を魅了

浅利香津代の一人芝居「影法師」

琴丘町（旧鹿渡町、上岩川村を合体）

一月十六日、琴丘町婦人団体連絡協議会と琴丘観光開発公社の共催で、農業暖地センターで浅利香津代さんの一人芝居「影法師」が上演された。

午後五時三十分開場予定の会場に、四時前から観客が詰めかけ、開演の六時には、能代市や大潟村など町内外から四百五十名を超える観客でいっぱいになった。

舞台は、髪結いのおしのが、死んだ亭主の仏壇を相手に一杯やりながら、出会いから夫婦になり死別するまでを、軽妙なユーモアとしみじみとした情緒をまじえながら語る。

おしのに共感し、幾度となく会場全体が笑いの渦に引き込まれたが、「二つの影法師も絵になるが、三つの影法師には温もりがある。三つの影法師が夢だったが、今は一つになってしまった」という語りに、会場は静まり目頭を押さえる姿が見られた。



東京にふるさとなまりの花が咲く

八竜町(旧鷺川村、浜田村を合体)

十一月二十九日、首都圏在住の八竜出身者で構成する「東京八竜会」の総会・交流会が、東京・台東区民会館の精養軒で開催された。

総会では、事業経過・決算報告・事業計画案などを協議し、今後の行動の指針とする青年部・婦人部の発足などを決めた。

引き続き行われた交流会には、一四七名の会員が参加し、町から駆けつけた町長・議会議員・婦人会・農協青年部などの三二名と合流。懐かしい名前を呼び交わし、ふるさとなまりが飛び交って、会場のあちこちに、酒酌みかわしながらのふるさと談義に花を咲かせる光景が見られた。

キリタンポ・佃煮・イカメシ・ナタ漬・梅漬などの即売、試食コーナーに設けられたキリタンポ鍋・漬物には沢山の人がだかり。懐かしい味を楽しんだ。

今回八竜から持参した『メロンの里から・八竜ふるさとステージ』のビデオ放映では、画面に懐かしい友の顔や最近の故郷の様子が見いだして、何度も歓声がわき起こった。

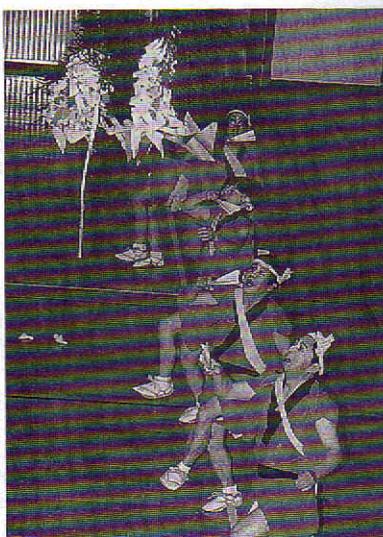
あらためて、ふるさとの大切さ・ありがたさが身にしみて、ふるさととの絆を確かめ合う一日だった。

新役員《敬称略》  
会長 川村幸信(松戸市・大口出身) 副会長 三浦仙雄(川口市・鷺川出身)、阿部稔(横浜市・浜田出身)、金子秀雄(墨田区・大口出身) 監事 大沢敏夫(立川市・大曲出身)、伊藤春(練馬区・鷺川出身) 幹事 檜森 宏(江戸川区・浜田出身)

恒例の郷土芸能発表会開催

青森県西津軽郡岩崎村

春まだ遠いみちのくの一月十五日(成人の日)に、村総合スポーツセンターに村民約三百名が集まって、第二三回芸能発表会と第七回郷土芸能発表会が開催された。芸能発表会は冬の娯楽の一つとして毎年行われているもので、村内各地の婦人学級や三味線愛好会などいろいろな団体が、歌や踊りなど日頃の研鑽の成果を存分に披露して、詰めかけた観客に盛大な拍手を送られていた。



郷土芸能発表会は、村内の伝統ある芸能を保存し、広く村民に知ってもらうため一年おきに開催されている。今年も岩崎地区から「花上げ踊り」、「御慶山踊り」、沢辺地区から「もちつき踊り」、大間越地区から「獅子舞」と十数年ぶりに地元有志により復活した「大間越山かけ踊り」が参加した。沢辺地区の「もちつき踊り」では、踊りの終了後にお祝いとして、紅白の餅が配られ、観客を大いに喜ばせた。

香りのオーナー「石川そば」作りに挑戦

峰浜村(旧沢目村、塙川村を合体)

峰浜村では、平成四年五月から、ハーブ(芳香性植物)を栽培から加工まで体験できるうきうき農園に「香りのオーナー」を募集した。応募した六六名のオーナーには、一人約二十坪の畑が貸し出されここから、ラベンダーのほかミントやタイム、カモマイルなど、さまざまなハーブが収穫された。これまで栽培実習やハーブカルチャーへの参加など、すでに五回の「香りのオーナー」交流会がもたれてきたが、さる十二月十三日、田中生活改善センターで第六回目の交流会が開催された。

この日参加した四十名のオーナーたちは、石川の福士テルさんを講師に、「石川そば作り」に挑戦した。隠し味に自らの手で栽培加工したミントやタイムを使うなど、そば粉からできあがりまでの一連の作業を、それぞれに楽しみながら体験した。



また、農園での一年を振り返っての話し合いでは、「もつと村の人たちとの交流がほしい」とか、「ハーブだけでなくいろいろな教えてもらいたい」などの意見が相次ぎ、積極的な意欲を見せていた。

トンネル跡の活用ー山ウド栽培

二ツ井町(旧二ツ井町、富根村、種梅村、荷上場村を合体、豊村を編入)

二ツ井では、減反転作をきっかけに始まった山ウド作りだが、トンネル跡を利用してウドの栽培に成功しているグループがある。JR二ツ井山ウド部会のメンバーで、総勢は十四名。

各地を視察研究の結果、昭和五四年に少しでも安定した農業をという願いから、それまで全く実績のないウド栽培に取り組むことになった。トンネルとは、荷上場地区の県道沿いにある元森林軌道敷。延長九八メートル、幅六メートルのかまぼこ型。「広さは申し分なく、気温さえ調節できれば栽培可能」という識者の意見に支えられ、平成元年五月からスターとした。林業の往時を伝えるトンネルも、昭和三八年に森林軌道の廃止以来、実に二六年ぶりに姿を変えて復活することになったのである。

栽培法は、四月末から五月にかけて株を畑に定植。翌年ほぼ一年後の四月に根株を掘り出し大型冷蔵庫に貯蔵し、六月からトンネル内の土床に植え込む抑制軟化栽培。植え込みが順次行われ、出荷が一月末から五月までの促成栽培が終わり、生産量が極度に少ない八月から十月にかけて出荷できるため、単価も高く取り引きできる。

トンネル内の栽培面積は、約一・五ヘクタールと少ないが、有利に栽培できることから、もちろん今後も続ける方針。

栽培の主力品種は、わせ種であつさりした白色系の「東武鯉玉2号」。最近人気が高い品種でもある。

二ツ井町のウドは作付面積、販売額ともに全県でのトップの位置を占めている。

首都圏でもじゅんさい大好評

山本町(旧下岩川村、金岡村、森岳村を合体)

去る一月二二日から二四日までの三日間、東京ドームにおいて「東京ドーム・ふるさとフェア」が開かれた。わが町からは「じゅんさい」「あきたこまちがゆ」「山菜」などの特産品を出品するとともに、町のPRに力を注いだ。

このふるさとフェアは、全国の「ふるさとの味」を一堂に集め、巨大消費地である首都圏にアピールしながら、地域の活性化を促進しようとするもの。三日間の入場者数は三十七万人にのぼり、三回目の参加となった本町の店頭も行列が途切れることがないほどの盛況ぶりを見せた。平成二年度から三年計画で行われたマーケティング事業を締めくくるとのフェアは、これまで参加した各種の物産・観光イベントの中でも最大と評価でき、特に「じゅんさい」のPRについては、抜群の効果を上げ、今後の販路拡大に大きく貢献するものと期待される。



今後、町では観光をメインとしたPRを行っていく計画で、それに先立って会場内で温泉と観光に関するアンケート調査を実施し、その集計結果を観光ビジョン作成に反映させている。

百万人に届かずー能代訪問の観光客

能代市(旧扇刈村、檜山町、鶴形村、浅内村、常盤村を編入)

能代市がこのほどまとめた、昨年一年間の観光客数は九十五万五千四百七十九人。

能代市の観光資源は、古くからの自然や名所、伝統行事、祭が主力だったが、最近はおなこりフェスティバル・風の松原フェスティバル・毘沙門まつり・檜山城まつり・高校バスケットボール能代カップなどの新しいイベントも人気がある。

主な伝統行事・イベント・名所などの人出は次のとおり。

- ▽能代七夕 四万九千人
  - ▽子ども七夕 三万八千人
  - ▽のしろ産業フェア 三万二千人
  - ▽落合海水場 一万一千五百人
  - ▽能代公園 つじまつり 一万五千人
  - ▽能代公園 さくらまつり 一万四千人
  - ▽嵐あげ大会 二万二千人
  - ▽中の申嫁見まつり 三千人
  - ▽日吉神社祭典 三千五百人
  - ▽八幡神社祭典 七千人
  - ▽檜山公園 一万一千五百人
  - ▽大柄の滝など 一万五千七百九十人
  - ▽能代公園 十三万七千九百六十四人
  - ▽能代温泉 二十八万八千七百二十人
  - ▽木材展示館 五百十九人
  - ▽井坂記念館 二千九百四十三人
  - ▽毘沙門まつり 三千人
  - ▽風の松原フェスティバル 二千人
  - ▽能代カッパ全国高校選抜バスケットボール大会 八千人
  - ▽のしろ子どもまつり 五千人
  - ▽おなこりフェスティバル 十五万人
  - ▽苜蓿まつり 二万八千人
  - ▽檜山城まつり 五千人
  - ▽飾り七夕 八千人
- 今年、県内初の熱帯植物園や能代ねぶたながし館を備える能代火力発電のPR施設がオープンする。

## 能代高校東京同窓会のあゆみ

年度	日/時	出席数	招待数	あゆみ	
昭32				後藤氏など有志の方々が、東京支部の形で活動始める	
41				毎年総会を開催し、同窓生の親睦を図ることを決定	
48				斬新なる理想に燃えた有志が、会の発展にテコ入れ開始	
50				卒業生のための東京宿泊所を作るなど、革新的な意見が出る	
51				○役員改選 ●名誉支部長 腰山（前支部長） ●支部長 板倉（前副支部長） ●副支部長 塚本，柳谷	
52	10/ 8	71	4		
53	10/13	78		○会則一部改正 ○茗溪会館に感謝状贈呈	
54	10/21	62		○名簿作成	
55	9/27	56	4	○8月末現在名簿登録者425名	
56	10/ 3	85	5	○能代高校東京同窓会と改称 ○役員改選 ●名誉会長 腰山 ●会長 板倉 ●副会長 後藤，吉田，河田，相沢，栗原，太田，高谷 ●会計監事 村井，八柳 ●事務局長 小林	
57	10/ 2	93	7		
58	10/ 1	88	5	○名簿作成 ○役員改選	
59	10/ 6	76	5		
60	10/18	100	6	○役員改選	
61	10/ 3	124	4	○山田敬三氏講演 ○能代北高，能代工高同窓生を招待	
62	10/ 2			○役員改選 ○会報第1号発行	
63	10/ 7	121	15	○斎藤忠生氏講演 ○名簿作成 ○会報第2号発行	
平成元	10/ 6	203	15	○役員改選 ○山田久志氏講演 ○同窓会本部より東京同窓会に同窓会会旗が贈呈される ○茗溪会館に感謝状を贈呈 ○会報第3号発行	
	2	10/ 5	151	11	
1991	3	10/ 5	131	13	○10周年記念総会 ○高橋正太郎氏講演 ○役員改選 ●会長 小林 ●副会長 近藤，太田，菅原 ●会計監事 村井 ●事務局長 八柳 ●会報編集長 杉崎 ●顧問 腰山，板倉 後藤 ○会則一部改正 ○会報第4号発行 ○この年より総会は本年度母校卒業生歓迎会を兼ねる
	4	10/ 2	136	26	○鈴木裕美子選手オリンピック出場記念講演 ○能代市内各高校同窓生を来賓として招待 ○会報第5号発行
	5	4/ 10/ 1			○会報第6号発行 ○新名簿作成 ○東京同窓会総会開催予定

## 秋田県立能代高校東京同窓会会則

- 第 1 条 本会は秋田県立能代高等学校東京同窓会と称する。
- 第 2 条 本会は能代高等学校を卒業、又は在籍したことがあり、東京および東京近郊に居住する者は、全てその入会の資格を得るものとする。
- 第 3 条 本会は同窓生各位の親睦と相互の繁栄を図り、以て郷土の発展と母校の興隆に寄与するものとする。
- 第 4 条 本会は幹事を置く。但し、人数は制限しない。任期は定めない。
- 第 5 条 幹事の内より、会長1名・副会長若干名・会計若干名を置く。又、顧問を置くことができる。但し、任期は各々2年とし、留任は妨げない。
- 第 6 条 本会の運営に当たり、事務局を設ける。
- 第 7 条 本会の運営一切の事項については、幹事会に一任する。
- 第 8 条 本会は年1回総会を開催する。
- 第 9 条 本会運営費は、会員の納付した年会費、寄付金その他を以てこれに当てる。但し、年会費の金額に関しては、幹事会がこれを定めるものとする。
- 第 10 条 納付された運営費は返還しない。
- 第 11 条 本会の会計年度は、毎年10月1日に始まり、9月末日を以て終わる。

附 則 本会則は昭和53年10月一部改正する。  
本会則は平成3年6月一部改正する。

### 事務局からのお知らせ

これまで、関東近郊在住の会員には、住所の判明している限り全員に会報を配布して参りました。みなさん様に不況にあえぐなか、はなはだ不景気な話題で申し訳ありませんが、郵送料もバカにならない金額になりますので、今年からは、すでに当年の年会費を収められた方のみ、会報を発送するという形に変更させていただきますので、なにとぞご了承ください。

### あ・と・が・き

不況風にあおられ、みなさんそれぞれにたいへんなご苦勞をなさっていることと思います。他聞に漏れず私もその一人として、毎日先行きの不安におののいております。いつも言い訳ばかりで申し訳ありませんが、なかなか会報の作成に打ち込めない状況です。幸い昨年の母校及び同窓生の活躍には、特筆すべきものがたくさんあり、本来今年こそはいつも違った会報を、と期待される方も多かったのではないかと思います。ですが、ご期待に沿えなかったことをお詫びいたします。

この会報の主たる目的は、同窓会総会の模様を誌面で報告すると同時に、心ならず総会に出席頂けなかった方々に、せめてもの連携・連帯感を味わって頂くことにあると思っております。そこで、本誌の中心はやはり総会の会場風景ですが、昨年は母校特に野球部のめざましい活躍がありました。同窓生の話題として、これはずすことはできないだろうと、独断と偏見で、その活躍の姿を間にはさませて頂きました。

あとは例によって、各地で行われた同期会の様子などを取り上げ、ふるさとの近況などを紹介させて頂きました。舌足らずに終わっておりましたら、紙数の関係とご容赦ください。

「ふるさと短信」紹介資料として、郷里各市町村から毎月寄せられるご協力に深く感謝するとともに、会員のみなさんのより一層のシビアなご意見・ご叱正をお待ちいたします。

〒164 東京都中野区中央5丁目7番1号 株式会社 友和 内  
秋田県立能代高等学校 東京同窓会 事務局 ☎03-3383-2111 (大代表)  
編集: 杉崎 孝雄 (新制8期)